

■地域公共交通の現況等

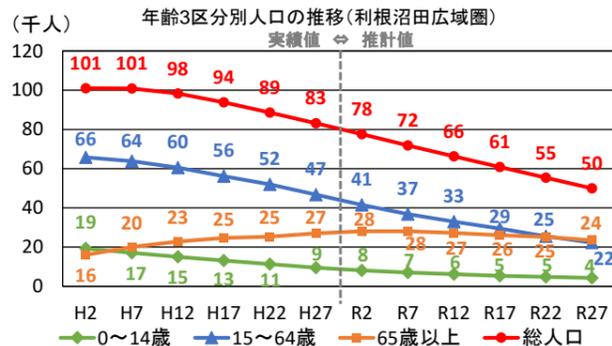
- 当圏域は今後急激な人口減と高齢化が進む。令和 27 年には圏域人口が 5 万人、高齢化率が約 5 割となると予測されている。
- 鉄道は J R 上越新幹線と J R 上越線(渋川～沼田～越後湯沢)が通っている。民間路線バスは 5 路線が運行(関越交通)され、行政運営の路線バスが 15 路線運行されている。鉄道と路線バスでカバーし、低人口密度の居住지가谷筋の道路沿線のためデマンド交通は運行されていない。
- 当広域圏の中心は沼田市である。人動きは各町村から沼田市への流動が多い。鉄道で沼田市、昭和村、みなかみ町が連絡されている。昭和村、川場村、片品村及びみなかみ町と沼田市を連絡するバス路線が運行している。沼田市街地では、バスが 16 路線運行され、大半のバス路線が市街地の拠点と沼田駅を循環し郊外部及び周辺町村と連絡する経路となっている。
- 昭和村はバスが 3 路線運行され、いずれも沼田市と連絡している。
- 川場村はバスが沼田市と連絡する 1 路線運行している。
- 片品村はバスが 3 路線運行され、うち 1 路線が沼田市と連絡している。
- みなかみ町はバスが 3 路線運行され、うち 1 路線が沼田市と連絡している。

■人口密度 (平成 27 年国勢調査)



●これまでの公共交通補助政策を前提とすると、人口密度を指標とした場合に適用する交通手段は、一般路線バスが 2,500 人/km<sup>2</sup>以上、コミュニティバスが 500 人/km<sup>2</sup>以上 2,500 人/km<sup>2</sup>未満、小型車両や区域運行が 500 人/km<sup>2</sup>未満程度と言われている。沼田市の市街地部では人口密度が 500 人/km<sup>2</sup>以上であるが、それ以外の地域では人口密度が 500 人/km<sup>2</sup>以下で、このままでは公共交通の維持が難しい状態である。人口が少ないものの、郊外及び中山間地の道路沿線に居住している。

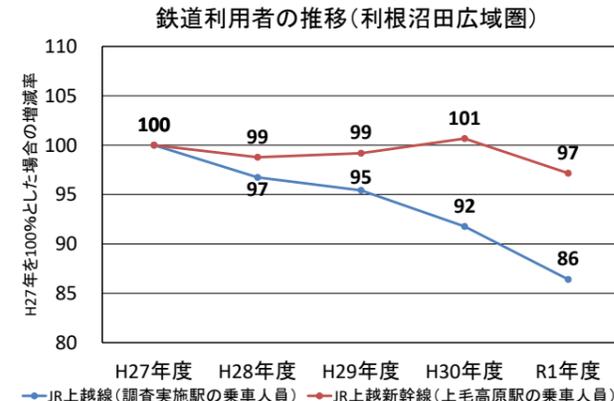
■人口の推移



データ：国立社会保障・人口問題研究所

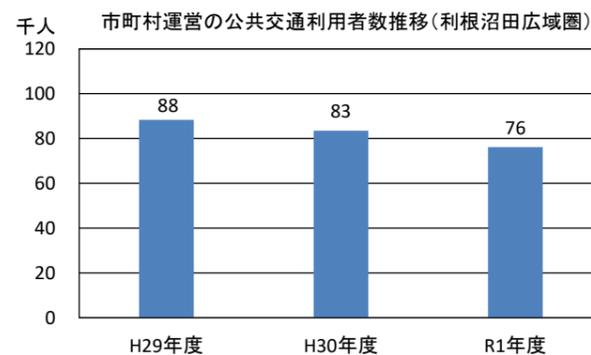
●今後総人口は減少し令和 27 年には現状の 64%の約 5 万人、高齢者人口も微減となるが、高齢化率 36%が現状の約%から令和 27 年には約 48%になると予測されている。

■鉄道利用者の推移



●鉄道利用者の推移は、JR 上越新幹線は微減、JR 上越線は H27 年から R1 年の 4 年間で 14%の減少傾向となっている。

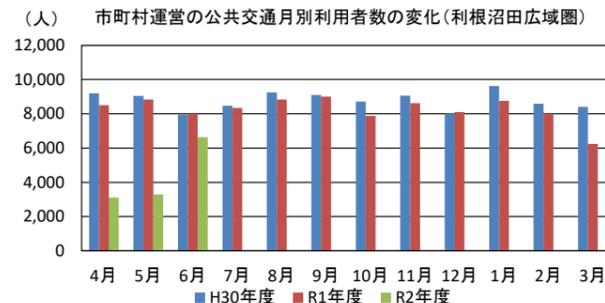
■市町村運営の公共交通 (バス、乗合タクシー等) 利用者の推移



※川場村村営バスを除く。

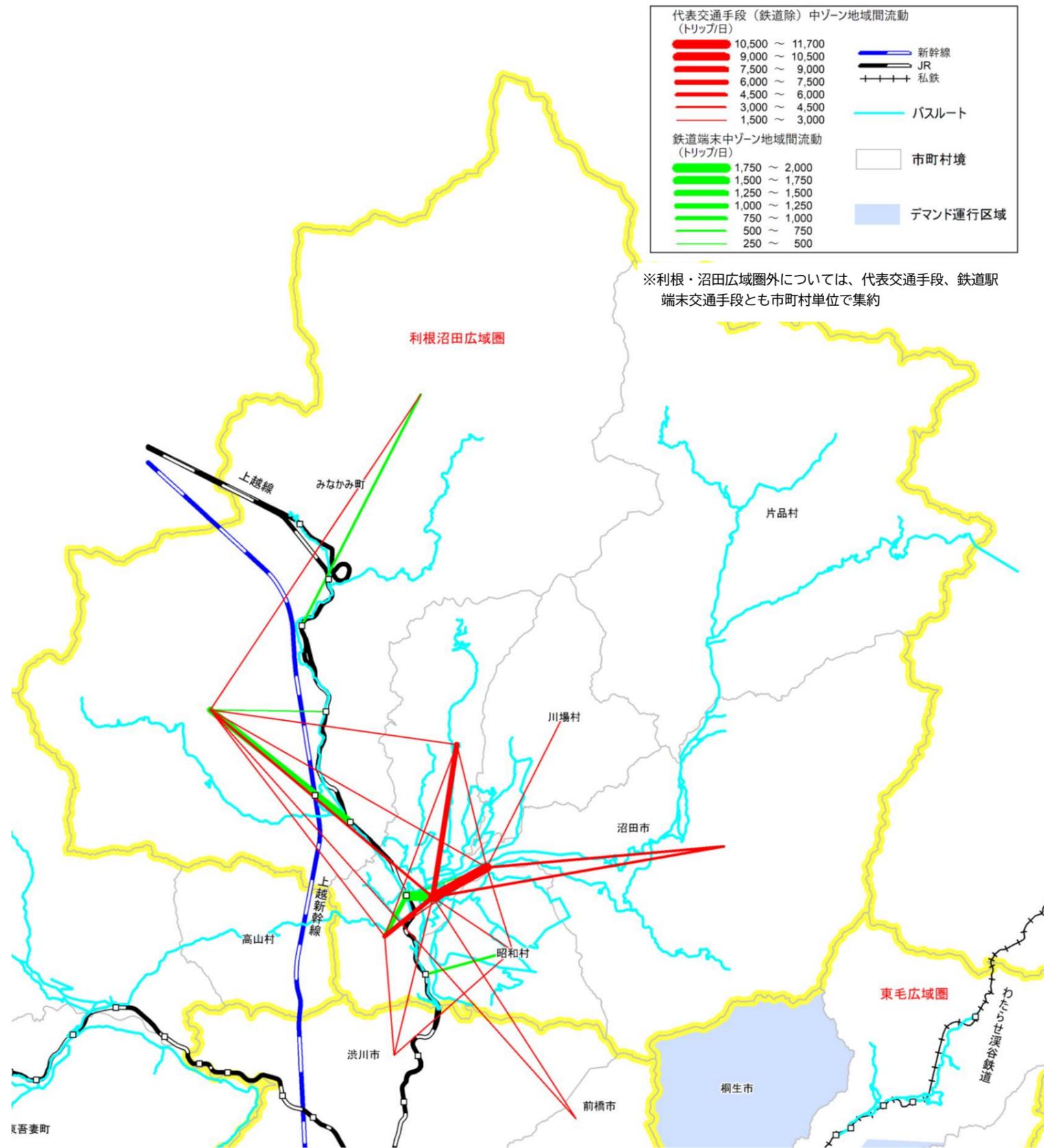
●市町村運営の公共交通 (バス、乗合タクシー等) の利用者数は、H29 年度から R1 年度まで減少し、R1 年度は H29 年度の 88%となっている。

■市町村運営の公共交通 (バス、乗合タクシー等) の新型コロナウイルスによる影響



●新型コロナウイルスによる市町村運営の公共交通 (バス、乗合タクシー等) の利用者への影響は、R1 年度の 3 月からみられ、3 月は前年度比約 74%、R2 年度 4 月、5 月には前年度比約 37%と急激に減少し、6 月になり前年度比約 83%に回復した。

■「鉄道バスネットワーク（鉄道データ、バス路線データは2020年9月時点）」と「人の流動（群馬県PT調査 平成27年、中ゾーン集計）」



- この図は鉄道・バスネットワーク（区域運行は着色）に、東毛圏域内の人流（鉄道を除く全代表交通、全目的）と鉄道駅端末（全手段、全目的）の人流を重ね合わせたものである。
- 昭和村は、市街地部は沼田へアクセスする路線バスがサービスされている。人の流動をみると沼田市街地、鉄度駅への流動が多い。
- 沼田市は当圏域の中心で、路線バスは沼田市街地と郊外部・隣接自治体を連絡している。人の流動も周辺と沼田市街地間の流動、沼田市街地と沼田駅間の流動が多い。
- 川場村は沼田へアクセスする路線バスがサービスされている。人の流動も沼田市市街地との流動が多い。
- 片品村は沼田までのバス路線もあるが、それ以外の路線も運行されている。人口が少なく一定量以上の流動を対象とすると目立った流動はみられない。
- みなかみ町は、南部地域の人々の流動は沼田市に向いているが、北部は町内への移動が多い。
- 利根・沼田広域圏外との結びつきは、代表交通手段では前橋市及び渋川市との移動量がみられる。駅端末手段での顕著な移動はみられない。